

北海道 文教広報

- 医療保健科学部誕生 ● 総合サポート力でアスリートを応援 ● 5学科共同「スマイルプロジェクト」●
- 2022年鶴岡学園Report ● Information ●



Photo by 北海道文教大学写真部 酒井美紅

約3年にわたったコロナ禍も、この春の感染症法上の5類移行を機に、やっと一段落となりそうですが、本学園においても引き続き油断することなく、それぞれの健康を守る対応に努めながら、学修環境の整備に教職員一丸となって取り組んでまいります。これまでの関係各位の御尽力、また学生・生徒・園児・保護者の皆さまの多大なる御理解と御協力に、深く感謝申し上げます。

さて、わが国の高齢化が急速に進行するなか、生活習慣病の増加に伴う医療・予防ケアのニーズが高まっています。それに伴い、高度に専門化かつ多様化する医療技術の革新に対し、柔軟に適応できる医療職人材の養成が求められています。

また、北海道文教大学の創設者である鶴岡新太郎先生が、当時の北海道の貧しい食生活を憂い、「健康こそ家

族の幸せ、日本のちから」と本学の礎を築いたことを範として、地域が求める優れた医療人材の育成に向け、本学ではこの4月に医療保健科学部がいよいよスタートします。これにより、北海道文教大学は、3学部6学科4研究科の体制に移行することとなりました。

今後とも本学園の教育・研究活動におきまして、御支援と御高配を賜りますようお願い申し上げます。



学校法人鶴岡学園 理事長
鈴木 武夫

祝 医療保健科学部 誕生

恵庭で100歳健康長寿時代のプロ

2023年4月1日、北海道文教大学に「医療保健科学部」が誕生します。理学療法学科、作業療法学科、看護学科の3学科を看護学科・リハビリテーション学科(理学療法専攻・作業療法専攻)とし、医療保健の理念や概要、関連法規などを共通科目として一緒に学びます。学科の枠を越えて、多様化する地域社会、多職種連携・協働するチームのあり方への理解を深めます。新学部は、より高い知識と技術を備えた医療の担い手を育てます。

学校法人鶴岡学園の創設者である鶴岡新太郎・トシ夫妻は、日本国民の豊かな食生活と健康を願い、その生涯を栄養士や調理師の育成に捧げ、道民の食生活に大きな影響を与えました。

100歳長寿も夢ではない現在、北海道文教大学が次に目指すのは「健康寿命の延伸」を真にサポートできる専門家の育成です。

高齢人口の割合が高くなる一方では、生活習慣病患者も増加して、医療やケアのニーズにも変化が生じています。そして、病気を治すための医療から、地域で生活しながら病気と共存する慢性期医療や、病気・介護予防や健康づくりが重視されつつあります。医療保健科学部では医療・保健・福祉の多様な課題を総合的

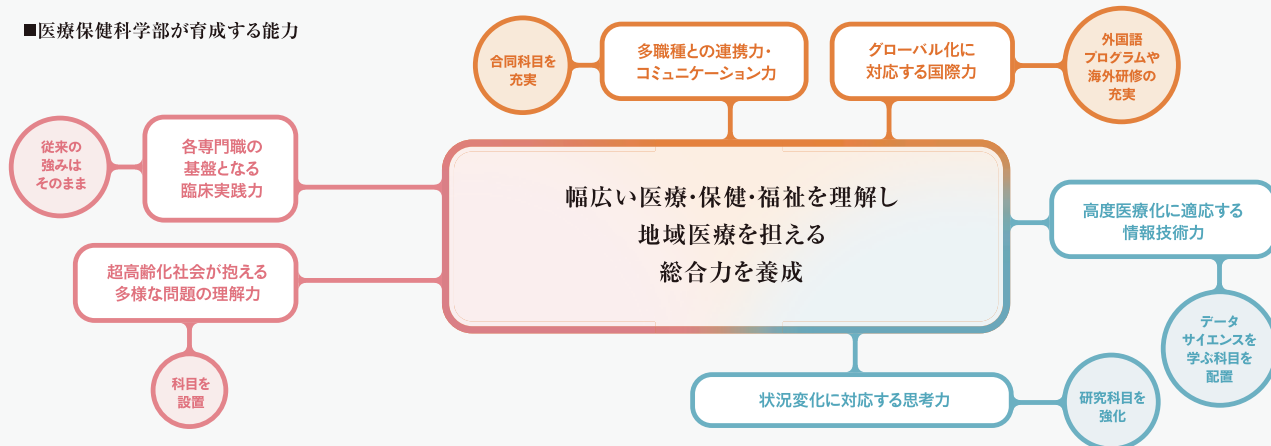
にとらえ、解決できる人材の育成を目指しています。そのために、医療・介護分野では欠かせない理学療法士、作業療法士、看護師の養成学科を新設の「医療保健科学部」に移行し、共通講義などで連携を図りながら、充実した授業展開を予定しています。

鶴岡夫妻の志を継ぎ、日本、そして世界の人々の健康に貢献できる新たな学部のこれからの、どうぞご期待ください。

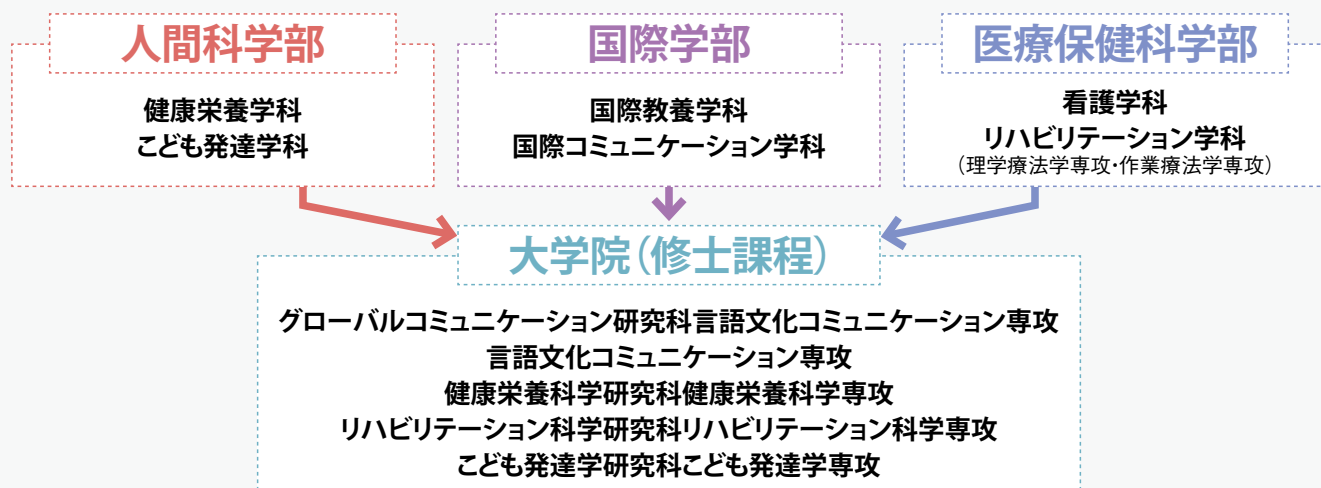


医療保健科学部長
横井裕一郎 教授

■医療保健科学部が育成する能力



1942年創設 学校法人鶴岡学園北海道文教大学 (HBU) 2023



フェッショナルを育てる

看護学+理学療法学+作業療法学が三位一体で人々の健康回復・維持をサポートし、100歳長寿時代社会に貢献します。

看護学科

これまで学科で行われていたチーム医療概論や地域包括ケアシステム論を学部合同科目として、多職種を目指す学生同士で議論する機会を増やします。



主体性をもって医療の課題に取り組む姿勢を身に付けます。



看護学科長
藤長すが子 教授

看護

三位
一体

理学
療法

作業
療法

リハビリテーション学科

HBUは経験豊富な指導陣と充実した実習機器を揃え、理学療法士と作業療法士を育ててきました。毎年、高い国家試験合格率と就職率を維持し、全国の医療機関や福祉施設などで活躍しています。



理学療法士はスポーツ分野での活躍もめざましく、健康長寿には欠かせない注目の存在です。

リハビリテーション学科長 兼 理学療法専攻長
橋田 浩 教授



患者・家族の心に寄り添いながら回復をサポートできる作業療法士を育てます。



作業療法専攻長
金子翔拓 教授

栄養・リハビリテーションの専門家&オリンピック出場経 HBUは“総合サポートカ”で、アスリ

アスリートの育成に力を注いできた鶴岡学園。試合を通じて、喜びや悔しさを味わいながら成長していく附属高校の生徒やHBUの学生を、教職員一丸でサポートしてきました。遊び心いっぱいのスポーツイベントには、教職員も参加。スポーツの素晴らしさをキャンパス全体で発進中です。

ただいま活動中、HBU女子アイスホッケー支援部 FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2023/レイクプラシッド)に6選手が出場

2023年1月、米国で開催された「FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズ(2023/レイクプラシッド)」に、本学の女子アイスホッケー部から6名の選手が日本代表に選ばれ出場しました。

学生版オリンピックといわれるこの試合は、世界中からトップ選手が集まります。世界ランキング1位のカナダに敗退しましたが、準優勝という快挙。2月6日には報告会が行われ、欧州遠征中の志賀紅音選手を除く、ラック陽コラソン選手、山本桃香選手、北村さくら選手、鎌田美南選手、黒須若菜選手の5名が今後の抱負を語りました。



がんばれ、HBU野球部 札幌学生野球連盟2部リーグに昇格!

昨年4月、名将として知られる高橋葉一監督を迎えた野球部。チームは長く3部リーグで戦い、昨年の部員はわずか12名。勝ち知らずの弱小チームといわれていましたが、高橋監督との出会いがきっかけで大奮起。2022年10月に開催された札幌学生野球連盟秋季入替戦で、2部リーグの小樽商科大学を破りました。

試合直前には黒田雄大主将が左足首を骨折して出場できなくなり、

第1戦ではキャッチャーの玉館拓也選手があごを骨折。チームは最大のピンチを迎えましたが、「絶対、勝つぞ!」を合い言葉に、残った10名で苦境を乗り越え、念願の2部リーグへの切符を勝ち取りました。“HBU野球部劇場”の様子は、STV「どさんこワイド179」の番組内でも数回にわたり取り上げられ、YouTubeでも再放送中。QRコードをスキャンすると感動のシーンを楽しめます。



本気で遊びながら、本気で挑戦!! 2022全日本ママチャリ耐久レース 令和4年大会

2022年8月11日に行われた「全日本ママチャリ耐久レース」に、本学の健康栄養学科と理学療法学科の学生26名の3チームと、教職員の1チームが参戦しました。

レースには、毎年、全国から200以上のチームが参戦。開催場所は十勝管内更別村にある十勝スピー

ドウェイで、全周3400メートルのコースを6時間にわたり疾走します。真夏の十勝平野で走る6時間は、体力と気力とチームワークが勝負を決めます。オレンジ色のユニフォームは汗でびしょり。本学は学生の1チームが準優勝を飾りました。



験者が応援中

ートを応援します!

HBU卒業生 米山知奈さん 元スマイルジャパン～アイスホッケー女子日本代表 人間科学部健康栄養学科助教に就任

2022年9月、本学の卒業生で元アイスホッケー女子日本代表でもある米山知奈さんが、人間科学部健康栄養学科の助教に就任しました。米山先生は、アイスホッケー女子日本代表「スマイルジャパン」のメンバーとして、ソチ（2014年）、平昌（2018年）、北京（2022年）と、冬季オリンピックに3回連続で出場した経験の持ち主です。助教として担当するのは、キャリア発展、応用栄養学、食品開発論ですが、「現在は、女子アイスホッケー支援部でも活動しています」と米山先生。

女子アイスホッケー支援部は、2022年7月に発足。女子アイスホッケー国内リーグで活躍する本学の学生に対して、HBUの人的・物的な資源を使って支援を行っています。

「支援部では健康栄養学科の小山奈緒美先生の栄養相談に同席させていただき、自分の経験をお伝えするなどしています。また、理学療法学科の大森先生のもとで、レッドコードの使い方を教わっている最中ですが、これはアスリートのトレーニングにも活用できる器具なので、今後の活用方法を探っているところです」

現役時代も試合経験豊富な先輩として、スマイルジャパンの後輩たちの声に耳を傾け、アドバイスしてきたそうです。

「北海道文教大学に通っている女子アイスホッケー選手は10名ですが、所属しているクラブチームがバラバラなので、チームをサポートするというよりは、学生

冬季五輪
3回出場経験を生かして
アイスホッケー支援部で
選手のケアに努めて
います!



よねやま・はるな 苫小牧出身。兄の影響で小学1年生のときにアイスホッケーを始める。人間科学部健康栄養学科4年のときに、ソチオリンピックに初出場。FWとして、長くスマイルジャパンの活躍に貢献する。

個人の求めに応じたサポートです。栄養面、ケガの対策、勉強面の悩み、競技への向かい方など、アイスホッケーを続けていくなかで悩んでいることを、いつでも相談してもらえるように心がけています。

アイスホッケーを続けながら大学に通う文武両道を貫くことは苦勞もありますが、アイスホッケー以外の世界にも触れられます。学生たちには、いろいろな体験を通じて喜びを感じたり学んだりしながら、成長してもらえたらと思っています」

選手たちには、米山先生の明るく朗らかな笑顔が、一番の支援かもしれません。

米山先生も
推薦!!

アスリートにも大好評
赤ちゃんからお年寄りまで
誰でも使える「レッドコード」
医療保健学部リハビリテーション学科
(2023年4月1日～)

大森 圭教授の本が出ました!



2023年3月2日
大学と地域が一体となって応援
女子アイスホッケー支援部の
後援会も発足!!



おいしく食べて100歳健康長寿 食で社会とつながる健康栄養学科の 取り組みが話題に!

北海道文教大学 × 北海道アイ 炊き込みご飯の素を共同開発

『あごだしつゆ』や『キャベツのうまたれ』などで知られるれ久原本家グループ。そのグループ会社で、北海道の食材を使い、北海道のおいしい食品や食文化を発信している株式会社北海道アイ（2023年3月1日付で株式会社久原本家北海道に社名変更）と人間科学部健康栄養学科が、昨

秋、『北海道のホタテを使ったパエリア風炊き込みご飯の素』を共同開発しました。2022年10月14日には、その発売記者会見が本学で開かれ、2022年10月28日付の地元情報誌『ちゃんと』に掲載されました。



北海道文教大学 × ラルズ × 北海道味の素 「食と健康」レシピコンテスト」表彰式開催

1942年にHBUの前身である北海道女子栄養学校が開校した当初から、鶴岡学園は地域の栄養課題の解決に

取り組んできました。その一環で、2021年8月より株式会社ラルズ、北海道味の素株式会社との産学連携で、

人間科学部健康栄養学科の学生による健康レシピの開発が行われています。そして、2021年度に続き今年度も「第2回“食と健康”レシピコンテスト」を開催。今回は、「野菜の摂取目標1日350g以上」の実践を目指す味の素株式会社のプロジェクト「ラブベジ®」と、同社が「Smart Salt（スマ塩）」の呼称で提案する「うま味やだしをきかせた“おいしい減塩”」をテーマに、1～3年生がレシピを開発しました。2022年11月2日には学生や関係者が集まり、表彰式を開催。健康的でおいしそうな料理が紹介されました。



北海道文教大学 × ポッカサッポロ北海道「みんなで作ったレモン×100レシピ」

HBUは2021年にポッカサッポロ北海道株式会社と包括連携協定を締結。その後、同社の商品『ポッカレモン100』を使用したレシピ100種類を掲載したレシピブックを共同事業で制作しました。

掲載レシピは、公募コンテストの出品作品から選ばれたもので、HBUの学生と附属高校の生徒も参加。人間科学部健康栄養学科の学生3名が

最優秀賞や優秀賞に選ばれ、表彰されました。2022年6月18日には、最優秀賞を受賞した4年生の吉田京華さんが、北海道テレビ放送（HTB）に出演して、料理の腕を披露。さらに、表彰式の様子は「NHK NEWS WEB」にも掲載されました。



すべての人に愛と幸せを！ 恵庭からダイバーシティ社会の実現を目指して

不登校の子どもの学習支援 こども発達学科が恵庭市教育委員会と「学びの森」をスタート

保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭などを養成するこども発達学科があるHBUでは、同学科の教員・学生を中心に、各学科が連携して、「子育て教育地域支援センター」で、地域の子育て支援を行ってきました。この事業では、親御さんに専門的な知識やノウハウを提供し、恵庭市の住みよいまちづくりにも貢献しています。

そして、2022年10月3日にはこれまでの経験を生かして、恵庭市教

育委員会との共同研究事業「学びの森」を試行的にスタートさせました。この取り組みでは、さまざまな事情で学校に通えなくなった市内の児童・生徒を対象に、教育委員会の学習指導員やHBUの教員と学生サポーターが学習を支援したり、相談に乗ったりします。

「1人でも多くの子どもが、心豊かな未来を迎えられるように」と奮闘

する教職員と学生たちに、ぜひ、エールを！



人間科学部 × 国際学部 第9回カリンバ祭りで朗読劇を披露

2022年7月23日、「第9回カリンバ祭り」が開催され、カリンバ遺跡に隣接するHBUも参加。人間科学部こども発達学科の学生を中心に、同・健康栄養学科、国際学部の学生も参加する「北海道文教大学共同研究ENIWA学」のメンバーが、朗読劇『銀河鉄道とカリンバの夜のために』を上演しました。これは、こども発達学科長の加藤裕明教授によるオリジナル作品で、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」に登

場する人物たちが、カリンバの上空を旅する物語です。会場は恵庭市郷土資料館の屋外。熱演した学生たちの笑顔（写真）を見れば、公演の成功は一目瞭然。拍手喝采の公演となりました。



国際学部 × 中国・浙江万里学院オンライン交流会

HBUは、諸外国の大学と学术交流協定を締結し、海外留学をはじめ、さまざまな形で学生がグローバル感覚を身に付ける機会を用意しています。しかし、2020年以降はコロナ禍でその機会も減ってしまったため、2022年11月2日に、中国・浙江万里学院と、オンラインによる交流会を開催しました。同大は浙江農業技術学校として1950年に設立された大学です。国際学部からは中国語を学ぶ学生2グループ4名がプレゼンテーションを行い、浙江万里学院の学生



も日本語で大学と学生生活を紹介するなど、オンラインとは思えないほ

ど、あたたかな交流となりました。

学生のちからで地域に笑顔広がる 「北海道文教大学 スマイル・プロジェクト」

2017年度から始まった「北海道文教大学 スマイル・プロジェクト」。5学科(看護・健康栄養・理学療法・作業療法・こども発達)の学生と教員が参加するこの事業は、疾病・障がいをもつ地域の子どもたちとの交流を通じて、発達支援と社会参加の機会を作るとともに、学生自身の学びにつなげることを目的にスタートしました。

その成果について、プロジェクトの発案者で進行役も務める人間科学部看護学科(2023年4月1日より医療保健科学部に移行)の鹿内あずさ教授に伺いました。

活動領域は多種多様

——まず、プロジェクトの活動内容から教えてください。

プロジェクトの対象は疾病・障がいをもつ子どもたちで、恵庭市内にとどまらず、江別市など近隣の地域でも活動することがあります。学祭などHBUが企画するイベントに招いたり、子どもたちが暮らしている地域で開催されるイベントに出向いたり、活動内容も活動場所もさまざまです。たとえば、江別で開催される「マラニック(マラソン・ピクニック)」やメイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン札幌支部が主催する「チャリティ・ラン&ウォーク」などでは、人工呼吸器を装着しているなどの子どもたちと一緒に車椅子を押しながら歩いたり、子どもたちと一緒にクリスマスのカップケーキを作ったり多岐にわたります。

学生たちは活動の前に、恵庭市子ども発達支援センターの担当者や、活動先の方に子どもの状況を聞きに行き、当日、注意すべき点を確認したうえで、マンツーマンで受け持つ子どもを自分たちで決めています。学科ごとに得意な知識や技術がありますので、学生が自ら考えて企画・運営し、教員はそれを手伝うというスタイルです。

——活動の参加者は？

5学科の学生さんたちと、興味があるという各学科の先生たちにもちょっとずつ声をかけて、今、教員は11名参加しています。みんな忙しいので、「今回は私がやるよ」、「今回は誰々さんが学生と行ってくれるよ」という感じで、うまく回っています。

——学生は全員、必ず参加しなければいけませんか？

いいえ、自由意志です。参加経験のある学生が友だちに声をかけ、その友だちから別の友だちへと、学生同士で声をかけあったりしています。私もコロナ禍でオンライン授業が始まってからも、他学科の講義を担当す



る際やGoogle Classroomを活用し、「スマイル・プロジェクトでこんな活動したよ」と写真を見てもらったりして、「この次行きたい人は、私に連絡ちょうだい」と募っています。そうすると、「作業療法学科の3年の××です、行きたいです」と連絡が入ることもあります。

難病のSさん母娘と出会う

——プロジェクトを始めたきっかけは？

私は地域看護専門看護師で、その活動中に知り合ったSさんという、8歳の時から関わっている女の子とお母さまとの交流がきっかけで、プロジェクトを思いつきました。彼女は神経難病で人工呼吸器を装着しています。現在21歳ですが、小学生のときから養護学校に通い、ちょっとだけ動く人差し指で意思伝達装置を操作して、「お母さんありがとう」、「背中がかゆい」といったことばを伝えられるようになりました。お母さまは本当に熱心に、Sさんの子育てに取り組んでいらしたのですが、「学生ボランティアが上の子と遊んでくれたことがあり、本当に助かった」と、おっしゃったことがありました。人工呼吸器を使う子どもがいると、親はその子どもにかかりきりになり、他の子どもにかまってあげる余裕がありません。私は、お母さまのことばを聞いて、HBUの学生さんに協力してもらい、疾病・障がいをもつ地域のお子さんと介護をするご家族の役に立ち、学生さんの成長にもつながる関わり方ができないか考え、企画を練りました。

——学生と交流した子どもたちの様子はいかがですか？

たとえば、大学から近い場所にある恵庭市子ども発達支援センターに通う小中高生を恵華祭に招待して、学生がマンツーマンで付き、一緒にキャンパス探検を楽しむ企画があります。子どもたちは模擬店で買いたいものがあると、500円の予算をどう使うか自分で計



江別市の『ココルクえべつ』にある重度肢体不自由児者・医療的ケア児親子交流サロン つながるカフェ anyでクリスマス会に参加。こども発達学科の教員の提案でクリスマスのオーナメントを看護学科の学生が作り、当日も5名の看護学生が参加した。

算して、店を運営する学生とのやりとりにも挑戦し買い物体験しますが、実に楽しそうです。帰り際には、「お姉ちゃんと離れたくない」と泣く子もいるくらいで、子どもたちにとっては素晴らしい社会経験になっていると思います。

——学生の様子も教えていただけますか？

ボランティアに参加すると、「かわいかった」という感想を口にする学生が多いですね。恵庭という地域とつながっていききたいという素直な気持ちから参加する学生がほとんどだと思います。

活動内容はイベントによって変わり、その都度、新

たな気づきや学びがあります。たとえば、恵庭市子ども発達支援センターとHBUが共同で企画したミニ運動会では、アンケート調査を行うと、「準備の段階から他学科の学生と活動するなかで、学科によって子どもに対する考え方やとらえ方が少しずつ違っていて、違う角度で子どもを見ることができ、勉強になった」とか、「初めはうまく

関われなかったが、活動を経て子どもと同じ目線でコミュニケーションがとれるようになった」などといった回答がありました。

——学生同士の交流も広がりますね。

はい。うちの看護学科の学生が、「こども発達学科の先輩と交流できて楽しかった」などと素直に喜んでいきます。

——鹿内先生からご覧になって成果は？

参加学生は5学科4学年で20人はいるわけで、学生たちはそれぞれの学科の特徴をつかみます。たとえば、「作業療法学科は機能的なところを見て子どものサポートをしているな」と気付いたり、ことばの選び方が得意なこども発達学科の学生を見て感心したり。そういう経験があって、「もっとできるようになりたい」、「もっと基礎的な勉強をして力を付けて、子どもたちと もっと関わりたい」と考えるようになるのが、一番うれしい成果ですね。

終末期の過ごし方に意外な視点！ 鹿内あずさ教授の研究が面白い

多方面で活躍中の鹿内教授。数あるなかでも注目したいのが、人生の最終段階の医療に関する研究です。どんな内容なのでしょう？

人生の最終段階は事故など病気以外でも迎えることがあります。自分の意思を伝えられないことだってあるかもしれない。2019年に科研仲間のスーディ神崎和代先生、竹生礼子先生、御厩美登里先生と共著で本を出しましたが、「私らしさを保つ」という項目を用意しました。「食べられなくなったら胃ろうも輸液もいりません。だけど、スコッチウイスキーを少し冷やして、小さじでひとくちだけ飲ませてくれるかな」とか、「海のそばで育ったので、波の音が聞こえるベッドにいさせてもらいたいけ

ど、それが叶わなかったら波の音を聞かせてください」とかいった例を紹介しています。

自分自身で終末期の過ごし方を考えること、それを大事な人と語り合うことは、そこに携わる医療者をも助けることになるし、ケアに生かれます。人生の終わりの過ごし方は生き方にも関わることなので、授業でもお話しています。



しかないあずさ
弘前大学医療技術短期大学部看護学科卒業。北海道医療大学看護福祉学研究所博士前期課程看護学専攻(地域看護専門看護師コース)修了。医療機関をはじめ、北海道総合在宅ケア事業団で訪問看護師として活動し、他大学を経て2015年から現職。日本専門看護師協議会の理事および研究成果提言委員会委員長。



「医療事前指示書 私への
てほしい」(ナカミヤ出版)

キャンパスに若さ弾ける

学生が主体のイベントが続く秋は、キャンパスが1年で一番活気づく季節です。10月には恵華祭、ホームカミングデー、えにわハッピーハロウィンが開かれ、学外でも北海道マラソンや札幌マラソンのボランティア活動などで学生パワーを炸裂させました。

10月8・9日

令和4年度 恵華祭 遊鶴(ゆうかく)〜こトシこそ、〜!

「恵華祭実行委員会」によって開催される恵華祭。2020年と2021年は、学生と教職員など関係者だけの参加でしたが、今回は市民にも開放。模擬店をはじめ、仮装コンテスト、カラオケ大会、よさこいなどメニュー



は盛り沢山。ゲストライブには食育アイドルの「えにわっ娘。」も出演して、大いに盛り上がりました。

10月8日

HOME COMING DAY 2022

鶴岡学園創立80周年を契機として2022年に初めて開催されたホームカミングデーは、卒業生が恵華祭の開催に合わせて“故郷”に戻る年に1度のイベントです。かつての仲間や教員と旧交を温め、恵華祭を通じて後輩たちとも交流。写真は、国際学部の様子を撮影したのですが、参加者の卒業年度はさまざま。教室の壁一面に張り出された学生時代の写真に目を細めたり、互いの近況報告に沸いたりしながら、ホットに過ごした1日となりました。



10月29～31日

2022 えにわハッピーハロウィン

恵庭青年会議所の主催で毎年、10月末に開催される「えにわハッピーハロウィン」。これは道内でも最大級のハロウィンイベントで、恵庭市花の拠点「はなふる」をメイン会場に開催されます。HBUからは毎年ボラン



ティアとして学生が参加し、今回も市民と学生たちの手作りによるカボチャのジャック・オー・ランタンが、幻想的な夜を演出しました。

8月28日

北海道マラソンにボランティア参加

1987年から続く「北海道マラソン」。わずか430人ほどの参加者で始まった大会も今や2万人規模に拡大。涼しい札幌だからこそ開催できるフルマラソンの大会ですが、午前8時30分ころの気温は24度超。ボランティア参加したHBUの学生は、暑さと闘いながら42.195kmを走るランナーたちを水分補給所でサポートしました。



12月18日

『劇団きいろ』第6回定期公演

人間科学部子ども発達学科の学生が参加する「劇団きいろ」。課外活動「表現スキルアップ講座」の一環で結成され、毎年、定期公演を行っています。12月18日、鶴岡学園記念講堂で童話『赤ずきん』をもとにした創作劇を披露しました。劇中では観客も一緒に楽しめる手遊びが盛り込まれ、会場は子どもたちの明るい声でいっぱいになりました。



北海道文教大学附属幼稚園

北海道文教大学附属幼稚園が恵庭市漁町に開園して2年目。地域の保護者の皆さんにも知られるようになり、通園中の子どもたちも、広々とした園庭と屋内で、元気いっぱいにご遊んでいます。

幼保連携型認定こども園北海道文教大学附属幼稚園も2年目を終えようとしています。コロナ禍で不自由な部分も多くありましたが、職員の成長とともに、子どもたちの伸びやかな成長の姿がだんだんと見られるようになってきました。

年長児はもうすぐ小学校入学です。一番大きなお兄さん、お姉さんとしての生活の締めくくりの時期で、だんだんと思いやり、相手を認める気持ちが広がってきています。年長さんとして成長した姿を認め合いながら意気揚々と卒園式を迎えてほしいと思っています。

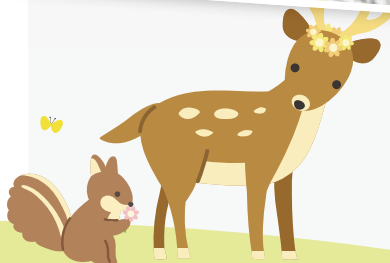
大学・大学院との連携も順調で、こども発達学科は授業やボランティアなどで学生が関わっています。また、看護学科や作業療法学科、健康栄養学科の実習も受け入れています。一方で、大学院のこども発達学専攻(修士課程)に在籍している保育教諭もいますし、この3月に、健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻(修士課程)で修士論文が通った管理栄養士の職員もいます。今後もさまざまな面で大学・大学院と一緒に園の運営を進め、より質の高い保育で、子どもたちの成長を見守っていきたいと思っています。

園長 小田進一

みんな、すくすく
元気です!



①めばえ組:5月、園生活にも慣れてきて、いろいろな玩具に興味関心を示して遊び始めました。②つぼみ組:発表会に向けた表現遊び。動物の被り物に喜んで、絵本の物語を題材に表現を楽しんでいます。③つるのこ組:自分たちで育てた野菜を給食室へ。心を込めて大切に育てた野菜の味は格別です。④ふたば組:子どもたちが大好きな泥遊び。全身を使ってダイナミックに遊んでいます。⑤幼児クラス(縦割り):子どもたちの声から始まったお祭りごっこ。「これください!」、「お客さんは1列に並んでくださいー!」など、それぞれの役を楽しみながら遊んでいます。⑥幼児クラス(縦割り):友達をそりに乗せて、よーいどん! 寒さに負けず、身体を動かして冬の戸外でも元気よく遊んでいます。



附属高 北海道文教大学 附属高校 WAKUWAKU未来へ

2021年4月に恵庭市内の新校舎でスタートして2年目。2022年度は、修学旅行やスポーツ試合など学外での活動も盛んに行われました。10代の青春時代を生き生きと過ごしている生徒たちの日常をご紹介します。

修学旅行 高校生活最高の思い出

恵庭から京都・広島へ

第1日目(10月25日)

新千歳空港～大阪・京都嵐山

第2日目(10月26日)

関西プログラム学習～自主研修

第3日目(10月27日)

京都清水寺～広島平和記念公園・広島城等

第4日目(10月28日)

広島厳島神社・宮島～新千歳空港



食物科 食のプロフェッショナルを目指して

食物科3年生飾り切り作品展示 令和4年9月22日

1位



2位



食物科3年生卒業料理展 令和5年1月27日

1位



2位



PTAも学んでいます!

PTA講習会



令和4年8月27日(土)、料理研究家の松井祐子氏を講師に招き、料理講習会を実施しました。テーマは「高校生のお弁当のおかず(アイデアで一工夫のお弁当づくり)」です。ちらし寿司やシャケのソテー、オープンオムレツ、チキンソテーなどを調理し、各自が持参した弁当箱に各々のセンスで盛り付けました。栄養満点、個性豊かなお弁当の完成です。

PTA研修会



令和4年11月4日(金)、「卒業後の進路選択を考える～大学と専門学校を体感しましょう～」をテーマに上級学校見学会を開催しました。

訪問先は、北海道文教大学と北海道ハイテクノロジー専門学校です。参加した保護者の皆さんも子どもの進路選択の参考にするという研修目的を達成するなど、有意義な時間を過ごすことができました。

PTA講演会



令和4年12月3日(土)、體(からだ)と心の笑顔サポート、伊藤悟氏を講師に招き、「先人の智慧を日常に生かす」をテーマに講演会を行いました。

古武術や脳科学、心理学などの手法を織り交ぜた、體と心が笑顔で元気になる講話内容で、人間本来がもつ體や呼吸の生かし方についての詳細な説明や実践の場を設けていただきました。日常生活にも幅広く活かせること間違いなしです

2022年度 躍動する附属高の 1年をふり返る

授業・部活・社会参加で、
一人一人の可能性が、
また1歩未来へ

2年生グローバルプログラム

令和4年12月15日（木）、北海道経済部観光局観光振興課及び恵庭市経済部商工労務課、株式会社ドラゴンツアーの支援を受け、台湾雲林県国立斗六高級中学とオンライン国際交流を行いました。

「台湾の高校生がとてもうれしそうに対応してくれた」など前向きな感想が多く、語学学習に向けた意欲向上の一助となりました。



男子サッカー部

全国高校サッカー選手権大会千歳地区予選では優勝を果たしました。全道大会では全国大会出場経験のある帯広北高校に4対1で勝利、全道大会ベスト16という結果を果たしました。次年度の目標は必ず全道ベスト8です。



茶道部

学校祭では全学年の部員が初めてのお茶会だったため、部員同士や顧問の先生方とも直前まで何度も話し合いを重ね、当日は笑顔でスムーズに行うことができました。2月5日（日）には恵庭市まちづくり



チャレンジ協働事業「日本の伝統文化体験」に協力し、慣れない土地で頑張っている外国人の皆さんに茶道を体験していただきました。

女子サッカー部

高校総体全国大会（徳島県）ではレベルの高さを実感し、課題をたくさん見つけることができました。久健興業株式会社（千歳市）様より米1,000kgを寄贈していただきました。練習後のおにぎり食で、もりもりパワーアップ。



ボランティア部

ガーデンフェスタ北海道2022や「はなふる」で開催された第31回全道フットパスの集いでは、ボランティア支援スタッフとして活動しました。「ありがとう」と温かい言葉をたくさんいただくなか、仕事を行うことの大変さや人に感謝、応援してもら



うことの喜びを知る1年でした。2月4日（土）には2023シーニックナイトに参加し、HBU校門前の歩道にランタンを設置しました。

写真制作部

写真甲子園にも出品するなど、技術を磨いてきました。その成果が実り、高文連の大会では全道大会にも出場することができました。全道大会ではプロの写真家の方が作品の評価をしてくださり、とても貴重な体験ができました。



レバンガ北海道U18

令和3年4月より設立、今年で2年目となりました。今年度は、B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2022、B.LEAGUE U18 ELITE 6 LEAGUE 2022、B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2023代替大会という主要3大会において優勝、前人未到の三冠を達成しました。写真は、原田裕恵庭市長を表敬訪問した様子です。



新着 包括連携協定

1 2022年 一般社団法人
8月23日 日本バイアスロン連盟



2 2022年 株式会社
10月17日 めもるホールディングス

3 2022年 医療法人 亀田病院
11月10日



4 2022年 株式会社 やまぐち食品
11月11日

5 2022年 サツドラホールディングス
12月16日 株式会社



6 2022年 明治安田生命
12月27日 保険相互会社 苫小牧支社

7 2023年 株式会社 北海道新聞社
1月16日



8 2023年 有限会社 恒志堂
1月19日

9 2023年 株式会社 北海道銀行
2月24日



2022年12月19日 南幌町の新米100kg受贈

12月19日、本学と包括連携協定を結ぶ空知管内南幌町から100kgの新米が届けられました。米作りが盛んな南幌町では「ななつぼし」をはじめ、「きらら397」、「ゆめぴりか」、「きたくりん」、「えみまる」などが栽培されています。いただいた新米は、JAなんぼろの「なんぼろピュアライス」です。人間科学部健康栄養学科の3、4年生がおむすびを作り、学生に南幌町の味を届けました。



メディアも注目! HBU発の食育アイドル 「えにわっ娘。」活躍中



花音りおなさん

「楽しくわかりやすく、そして、正しく伝える」をより大切にできるようになったことが、えにわっ娘。の活動を始めた私にとっての実りのひとつです。また、念入りに事前練習を行った初舞台のガーデンフェスタは、私たちにとって忘れられないスタート地点となりました。今後も食のスペシャリスト(見習い)として、まっすぐ進んでいきたいです。

鈴屋りりさん

アイドル活動を通じて運営の方々やファンの方々との関わりが増えて、人前で話す力が付きました。ガーデンフェスタで初めて経験したライブは緊張もしましたが、応援してくれている方がたくさんいるということをとっても実感できました。これからは実習が増えますが、アイドル活動と両立させたいです!

人間科学部健康栄養学科発の食育アイドル「えにわっ娘。」。アイドルを通じて食育を進める“本気”のプロジェクトです。「推せる食育」をモットーに、現在、活動しているのは花音りおなさん、文瀬あすかさん、鈴屋りりさんの3名。学祭はもちろんのこと、「全国都市緑化北海道フェア2022」(ガーデンフェスタ北海道2022)や「第15回YEGフェスティバル」などのイベントに出演し、歌やダンスなどのパフォーマンスでバランス良く栄養をとることの大切さを発信しています。



文瀬あすかさん

普通の学校生活じゃできないことをたくさん経験しました。恵庭市の皆さんにたくさんお世話になり、貴重な体験をさせていただき、恵庭のためにケッパルこともできました。もっといろんなところに足を運んで、食育について一緒に学び、歌とダンスで、皆さんを元気づけたいです。

HBU 公開講座

人生100年時代を迎えた現在、次なるミッションは、「百歳長寿」の実現に向けた人々の健康サポート。ネットワークを活かし、公開講座を通じて情報発信中です。

11月26日(土)、金子翔拓教授(人間科学部作業療法学科)の学外公開講座「体幹を制する者は姿勢を制する～100歳ライフを支える姿勢～」が、札幌市内の紀伊國屋書店で行われました。

体幹は二足歩行の人間にとって要です。会場からは「役に立ちました」という声が多数寄せられました。



北海道文教大学 **OPEN CAMPUS** 2023 SCHEDULE

5/28(日)、6/18(日)、7/30(日)、8/20(日)、
9/17(日)、10/8(日)、2024/3/24(日) ミニオープンキャンパス 12/17(日)

プログラムの内容や時間は変更する場合があります。詳しくはHPをチェック！

<p>9:30~</p> <h3>受付</h3> <p>●事前にマイページにログインし、入場用QRコードの表示をしてください。</p>  <p>場所 ▶ 鶴岡記念講堂ロビー</p>	<p>10:00 - 10:30</p> <h3>全体ガイダンス</h3> <p>●大学の特色 ●新学部の新学科説明 ●入試説明</p>  <p>場所 ▶ 鶴岡記念講堂 大ホール</p>	<p>10:40 - 12:10</p> <h3>各学科プログラム</h3> <p>●学科紹介 ●模擬授業</p>  <p>場所 ▶ 各学科プログラム教室</p>	<p>12:25 - 13:00</p> <h3>個別相談会(希望者のみ)</h3> <p>【各学科】●入試 ●学生生活 ●奨学金 ●一人暮らしなど</p>  <p>場所 ▶ 鶴岡記念講堂 多目的室</p>
--	--	--	---



人間科学部

健康栄養学科

一人に寄り添った心を持った管理栄養士



@hbu_kenko

人間科学部

こども発達学科

こどもを健やかに育てる 専門家を育てる



@hbu_kohatsu

国際学部

国際教養学科

世界が抱える課題に向き合い、共に解決する方法を探る



@hbu_kokusai

国際学部

国際コミュニケーション学科

異文化コミュニケーション力を磨き、世界と北海道の架け橋に



@hbu_kokusai

新設

2023年4月 医療保健科学部 始動!



医療保健科学部

看護学科

多職種連携において専門的役割を發揮できる看護職の育成



@hbu_nursing

医療保健科学部

リハビリテーション学科 理学療法学専攻

チーム医療で地域を支える 理学療法士を育てる



@hbu_pt2006

医療保健科学部

リハビリテーション学科 作業療法学専攻

魅力溢れる作業療法の仕事



@hbu_ot2007

活かす人へ 北海道文教大学

〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1
TEL:0123-34-0160 FAX:0123-34-1640

北海道文教大学 公式webサイト

入試広報課 公式LINE

- 人間科学部: 健康栄養学科/こども発達学科
- 国際学部: 国際教養学科/国際コミュニケーション学科
- 医療保健科学部: 看護学科/リハビリテーション学科(理学療法学専攻・作業療法学専攻)



www.do-bunkyo-dai.ac.jp



@dobunkuyodai

オープンキャンパス、入試のお問い合わせはコチラ▶▶▶



入試専用



0120-240-552

入試広報課では、資料請求をはじめ様々なご相談にお答えします。お気軽にご連絡ください。

ACCESS

—アクセス—

■JR利用の場合

- JR恵庭駅から
JR恵庭駅「東口」から直進徒歩8分
北海道文教大学正門に到着
- 札幌駅から
「JR千歳線」乗車。3駅目の「恵庭駅」下車後、東口より直進徒歩8分
北海道文教大学正門に到着
JR恵庭駅まで快速「エアポート」で24分
(快速エアポートは12分おきに運行しております)
- 新札幌駅から
「JR千歳線」乗車。2駅目の「恵庭駅」下車後、東口より直進徒歩8分
北海道文教大学正門に到着
JR恵庭駅まで快速「エアポート」で15分
(快速エアポートは12分おきに運行しております)

■自家用車で来学される場合

- 高速道路「恵庭IC」下車。高速道路出口を左折、恵庭川沿大通(道道117号線)を直進8分北海道文教大学到着。
(駐車場は左に記載の通り)